

大学

企画課管理用 教 - D - 2

推進主体	国際センター
責任者	国際センター所長

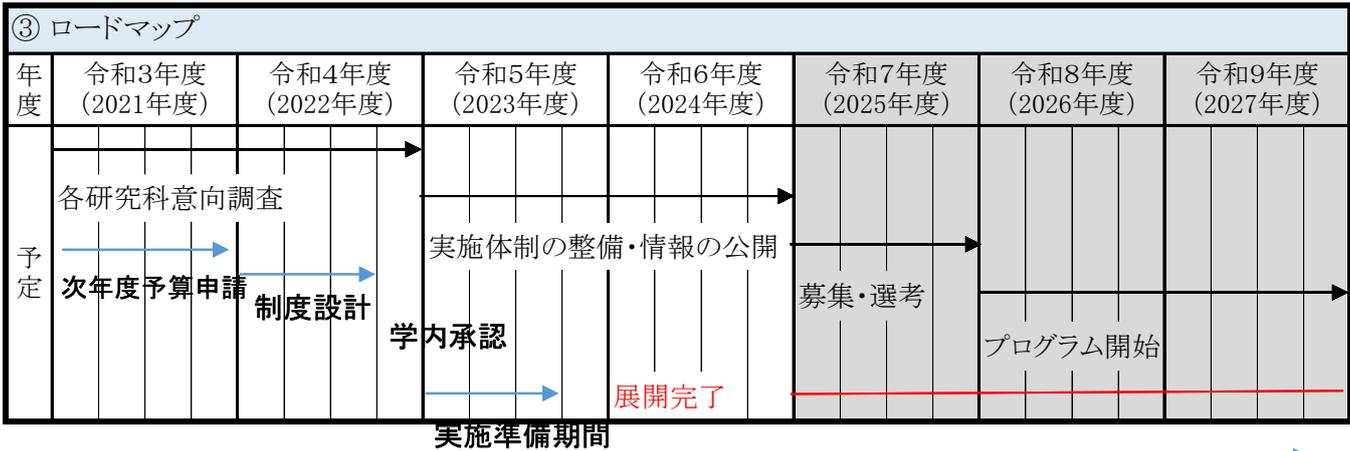
分類			実施計画	開始年度	完了年度	将来的な継続
教	-	D	②博士前期課程におけるダブルディグリープログラムの検討	令和4年度	令和6年度	あり(予定)

① 目的・内容

ダブル・ディグリー・プログラム(以下DDプログラム)とは、複数の連携する大学間で開設された同じ学位レベルの共同プログラムを修了した際に、各大学がそれぞれ学位を授与する制度である。大学間で連携をはかることにより、学生が1つの大学に在籍して学位を得てから別の大学に在籍して学位を得ることに比べ、期間と学習量、経済的負担を多少緩和して2つの学位を得ることを可能とする。DDプログラムの目的は、各大学が一大学では提供できない、より高度で革新的なプログラムを行うことにあるが、特に海外の大学との連携による博士前期課程段階でのDDプログラムには以下のような意義がある。まず、学生にとっては国際的な学修機会に加え、学位取得を通じて海外の高等教育機関等での国際通用性の証明、国際的就職市場での評価向上が期待される。大学院にとっては、他の大学院との差別化、プログラムの魅力向上と新規応募者の増加、そして海外大学との研究教育面での連携・共同を推進する効果が予想される。DDプログラム構築の検討にあたっては、単年度計画の策定主体である国際センターが窓口となって、実施母体となる各研究科・専攻及び関連部署と連携し、情報の共有、プログラム運営上の調整、連携相手校との交渉等を行う。

② 到達目標(数値目標/定性目標) ※数値目標を設定できない計画は、定性目標を設定すること。

ダブルディグリープログラム構築の意向が示された場合には、当該研究科・専攻、相手大学および学内関連部署と連携を図り、令和8年度までにプログラムの導入を到達目標とする。



④ 数値目標の詳細 ※設定できない計画については記載不要。

1	直近	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)
目標							
実績							
2	直近	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)
目標							
実績							

(様式2) 実施計画書 兼 報告書

⑤ 実施計画／実施報告		
年度	実施計画	実施報告／今後の課題
令和4年度 (2022年度)	<ul style="list-style-type: none"> <li>各研究科に対し、主に以下の点に留意の上、プログラム構築の意向調査を行う。</li> <li>-候補の相手校の選択(大学間協定校または交流実績校)</li> <li>-双方向(派遣・受入れ)または一方向(派遣のみ)</li> <li>-対象学生(新入生または在籍学生)</li> <li>-参加学生数の見込み</li> <li>-授与する学位</li> <li>-構築意向のある研究科について、国際センターが窓口となり候補相手校に打診</li> </ul>	<p>各研究科に対し、ダブルディグリープログラム構築の意向調査を実施し、3研究科7専攻より、「検討する」との回答を得た。協定校のうち、実質的な交流実績のある大学を中心に、取得可能な学位のリストを作成し、これをもとに、連携先を未定とした2研究科7専攻に対し、令和5年1月末を目途に、希望する相手校を調査、この回答に基づき、連携相手として希望が出された協定校に、当該研究科・専攻とのダブルディグリー導入について打診する予定である。</p> <p>★進捗段階:「意思決定」</p>
令和5年度 (2023年度)	<ul style="list-style-type: none"> <li>-連携先候補の協定校からダブルディグリー導入の同意が得られた場合、当該研究科・専攻が検討すべき主に以下の点を共有、先方との仲介するなど、実施体制の整備を支援する。</li> <li>(当該研究科)</li> <li>-協議会等の設置</li> <li>-カリキュラム編成、履修のタイムスケール、単位互換手続き、学年暦の相違、履修すべき科目と学生が選択可能な科目の整理、学位審査基準、途中断念者・成績不振者の取扱い等(関係部署)</li> <li>-学籍上の身分、授業料の取扱い、経費配分、奨学金等</li> <li>-相手校とダブルディグリープログラムに関する協定締結</li> </ul>	<p>「検討する」との回答を得た3研究科7専攻の中、政治学研究科については、カリフォルニア大学サンディエゴ校と、締結済みの研究科間協定を基に、国際センター教員を介し、ダブルディグリープログラム導入に向けた協議を開始した。</p> <p>同研究科以外の2研究科7専攻に対して、希望する具体的な連携先の調査を行った結果、英語英米文学専攻以外の研究科・専攻については、本計画を今後の長期目標として位置づけ、具体的な案が浮上した際に改めてダブルディグリープログラムの導入を検討することとなった。</p> <p>★進捗段階:「意思決定」</p>
令和6年度 (2024年度)	<ul style="list-style-type: none"> <li>-政治学研究科については、引き続き、国際センターの教員が仲介し、双方の大学での学位取得を目指した学生交流の円滑化を目的とした協定締結に向けて協議を継続させる。</li> <li>-人文科学研究科英語英米文学専攻については、令和5年度に引き続き、ダブルディグリープログラムの導入有無の検討を進めるよう依頼するとともに、導入することが決定した場合は、協定校の中から希望する連携先の選出を依頼し、先方の意向を確認する予定である。</li> </ul>	<p>政治学研究科については、国際センターの教員が仲介し、協議を続けてきたが、その過程で、両大学の交流の枠組みの下、まずは、本学の大学院生を学位取得を目的に派遣する制度を確立し、実績を積み重ねた上で、然るべき時期に、ダブルディグリープログラムの導入に向け、再検討することとなった。同研究科以外の研究科(専攻)については、人文科学研究科英語英米文学専攻を含め、プログラムの開発には多大な時間がかかることなどから、具体的な連携先が浮上した際に改めて検討することとし、「博士前期課程におけるダブルディグリープログラムの検討」事業については、取り組みの結果、「長期的課題」として位置付けることで完了とする。</p> <p>★進捗段階:「計画達成」</p>

⑥ 計画の成果・今後の方針 <b>※計画を中止する場合はその理由を記載のこと。</b>	
<p>当初の目的・内容に沿い、海外協定校のうち、実質的な交流実績のある大学を中心に、取得可能な学位のリストを作成した上で、各研究科・専攻に対し、導入に向けたダブルディグリープログラムの導入に関する意向調査を2年間に亘り実施した。各研究科で委細検討の結果、政治学研究科以外の研究科においては到達目標の令和8年度までに導入することは時期尚早とのことで、具体的な連携先が浮上した際に改めて検討することが決定したため、「長期的課題」として位置付け本事業を完了することとなった。また、本事業開始前から特定の大学と交流基盤があった政治学研究科については、当初の計画とは別の形態とはなったが、交流促進に繋がる結果を得た。</p> <p>今後の課題として、博士課程全体の中で取組みやデザインを示すことが挙げられているが、ダブルディグリーに関しても、具体的な案が浮上した際には、国際センターが各研究科におけるプログラム導入の検討を支援していくことができる体制を保持する。</p>	
<p>※計画完了時点で記載してください。 ○・・・必須事項 △・・・必要に応じて記載</p> <p>○②到達目標に対する結果</p> <p>○計画の中止理由(※中止する場合)</p> <p>△今後の見通し・課題(通常事業化など)</p> <p>△その他</p>	